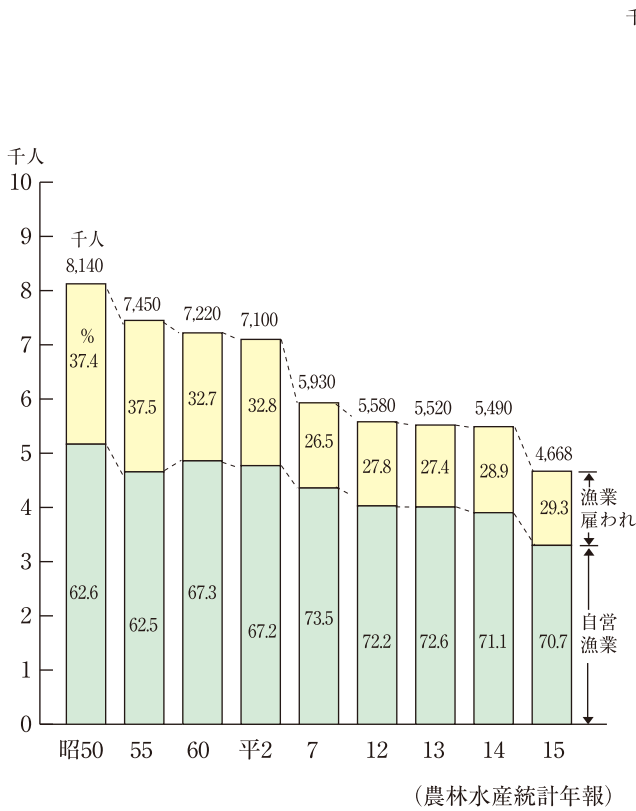


### 3 水産部門

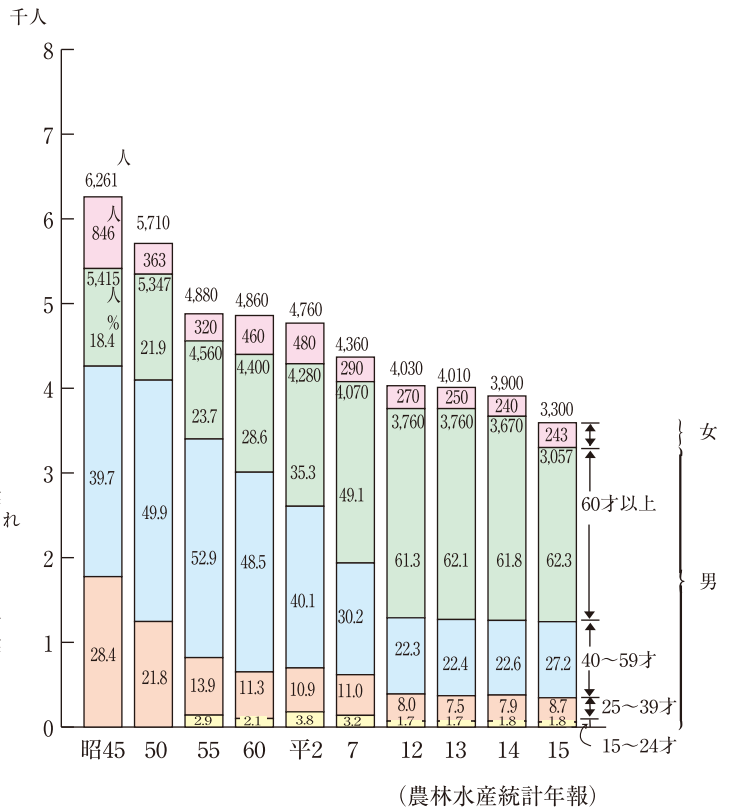
#### 1) 水産業を担う人々

漁業就業数は減少傾向で推移しており平成15年の漁業就業者数は4,668人である。  
 また、自営漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が62.3%を占め高齢化が進んでいる。

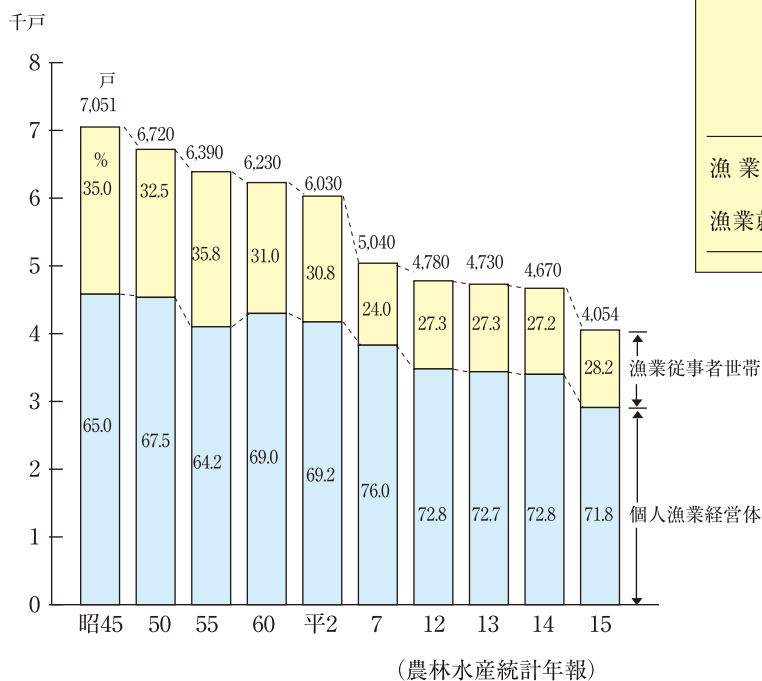
漁業就業者数の推移



自営漁業就業者数の推移



漁業世帯数の推移



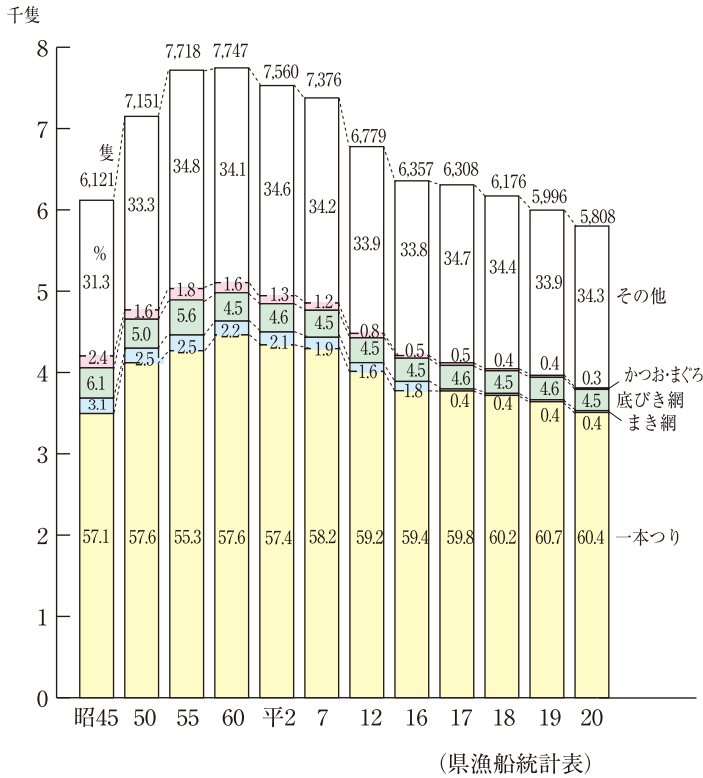
漁業世帯数等

〔平15〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
漁業世帯数(戸)	175,819	4,054	16	2.3	北海道	長崎	宮城
漁業就業者数(人)	238,371	4,668	20	2.0	北海道	長崎	三重

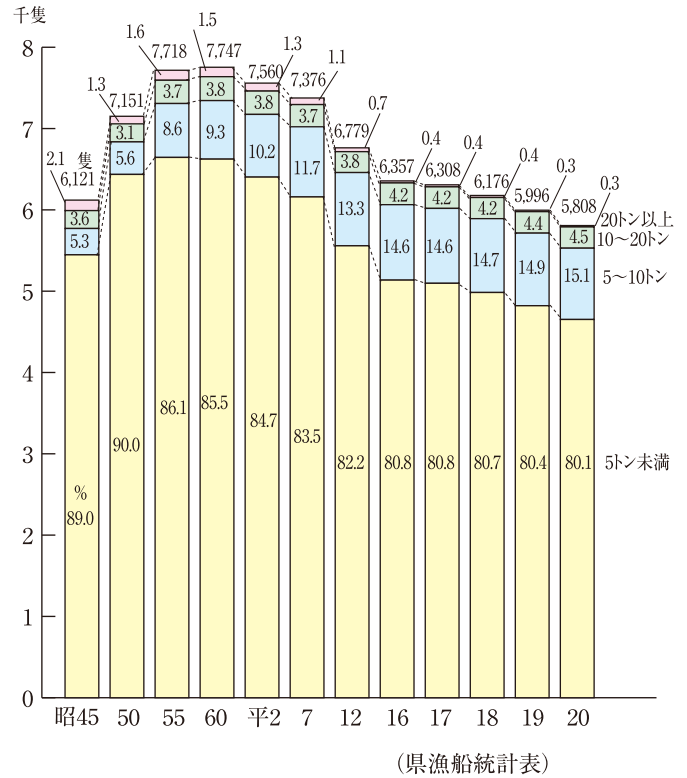
## 2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向で平成20年12月末日現在では5,808隻となっている。漁業種類別では「一本釣り」が60.4%、「底びき網」4.5%である。トン数別では5t未満の小型漁船が80.1%と大半を占めている。

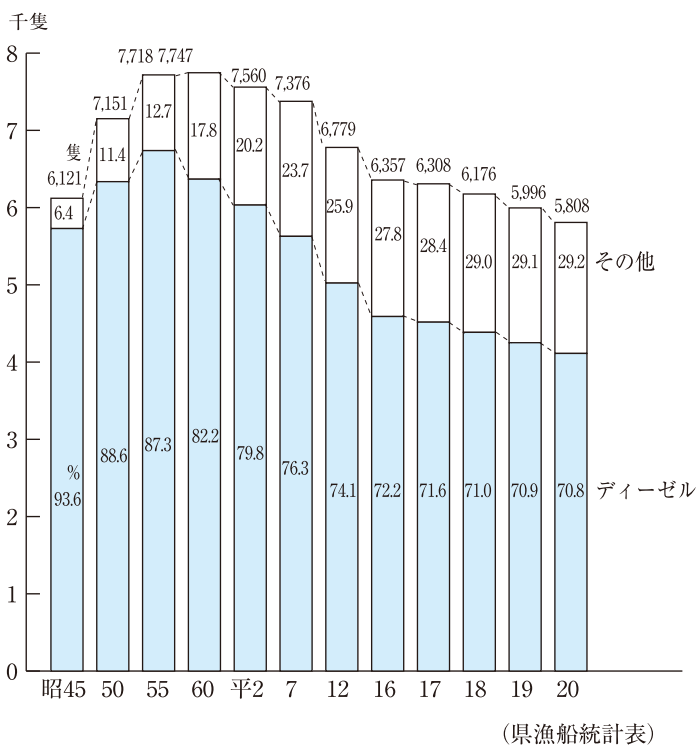
### 漁業種類別海水動力漁船数の推移



### トン数階層別海水動力漁船数の推移



### 機関種類別海水動力漁船数の推移



### 漁港の現況

本県には、95港（全国2,921港）の漁港と、122地区（全国4,686地区）の漁業集落がある。また、漁港の種類は、漁船の利用範囲によって下表のように分類されている。

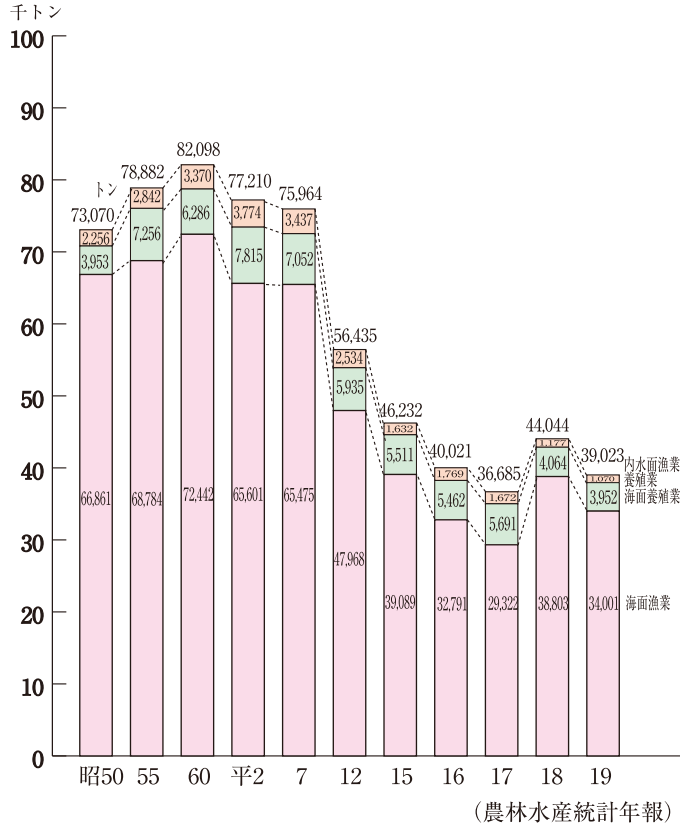
種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	78	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	95	

### 3) 水産業の生産

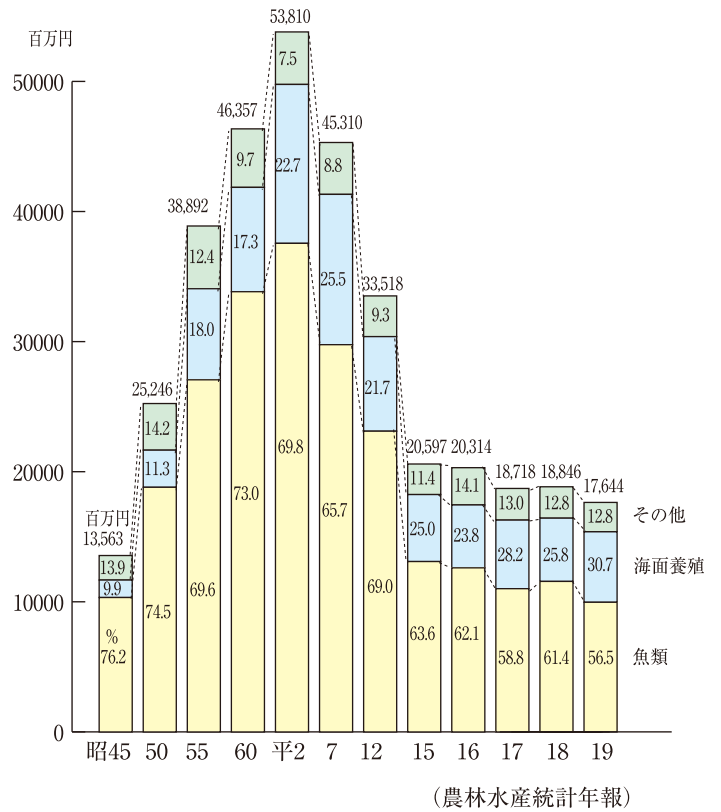
漁業・養殖業の生産量は昭和60年の82,098 t をピークに減少傾向にあり、平成19年は39,023t となっている。

海面漁業・養殖業生産額は平成2年をピークに減少傾向で平成19年は176億44百万円でピーク時の32.8%となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



海面漁業・養殖業生産額の推移



— 漁 獲 量 —

〔平19〕	全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位	
	(t)	実 数	順 位	シェア(%)	県名	県名	県名
海 面 漁 業	4,396,402	34,001	27	0.77	北海道	長 崎	宮 城
魚 類	3,407,730	31,301	26	0.92	北海道	長 崎	宮 城
えび・かに・いか・たこ	438,062	1,475	31	0.34	北海道	青 森	宮 城
貝 類	355,799	97	38	0.03	北海道	愛 知	三 重
海 藻 類	103,601	715	12	0.69	北海道	愛 知	青 森
海 面 養 殖 業	1,242,112	3,952	23	0.32	北海道	宮 城	広 島

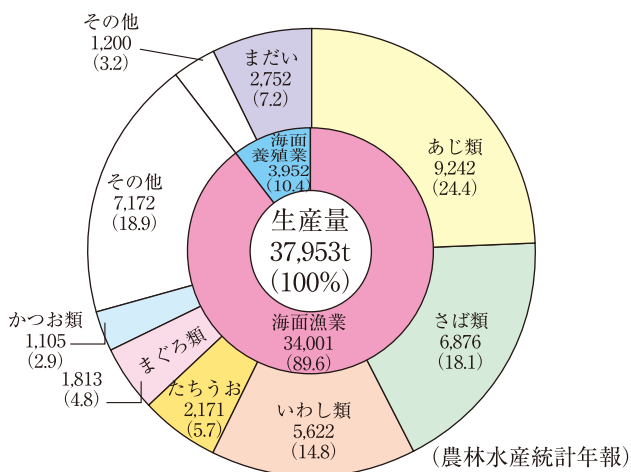
— 生 産 額 —

〔平19〕	全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位	
	(百万円)	実 数	順 位	シェア(%)	県名	県名	県名
海 面 漁 業	1,126,428	12,226	27	1.09	北海道	長 崎	静 岡
海 面 養 殖 業	448,955	5,417	19	1.21	愛 媛	鹿 児 島	北 海 道

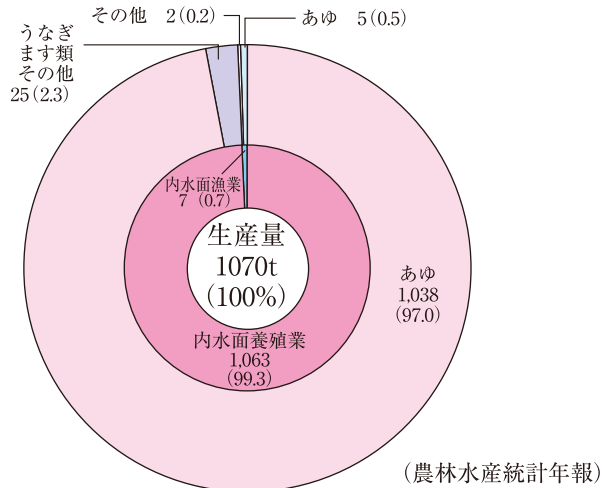
## 4) 主な漁種別漁獲量・生産額の推移

平成19年の魚種別の生産量は、海面漁業では、あじ類24.4%、さば類18.1%、たちうお5.7%、まぐろ類4.8%となっている。海面養殖業ではまだいが69.6%を占め、内水面漁業・内水面養殖ではあゆが97.5%となっている。

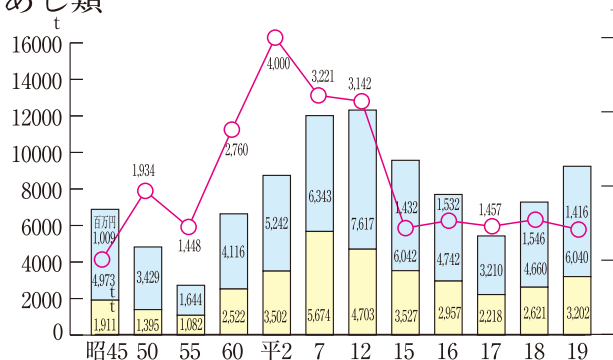
海面漁業、養殖業魚種別生産量（平19）



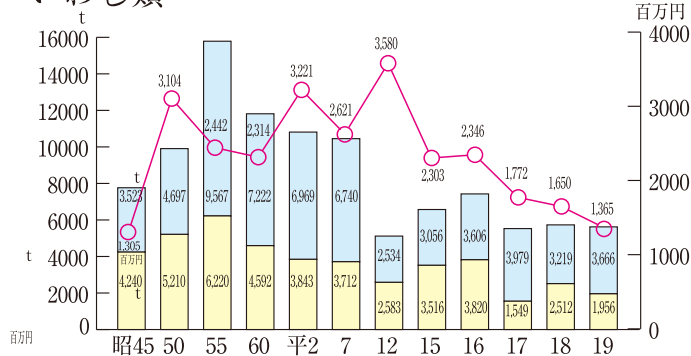
内水面漁業、養殖業魚種別生産量（平19）



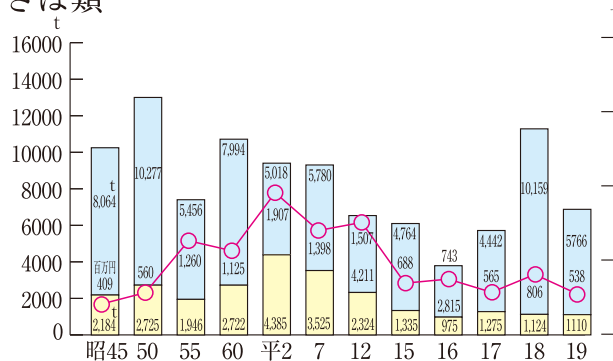
あじ類



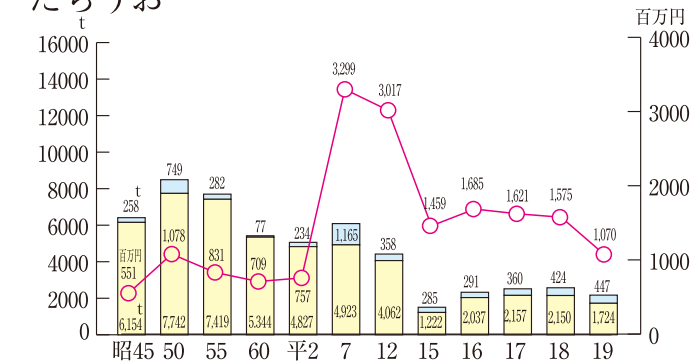
いわし類



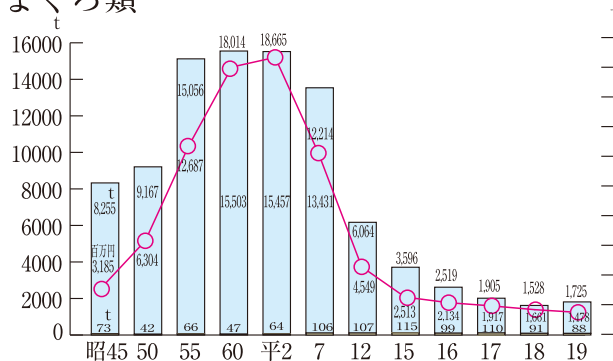
さば類



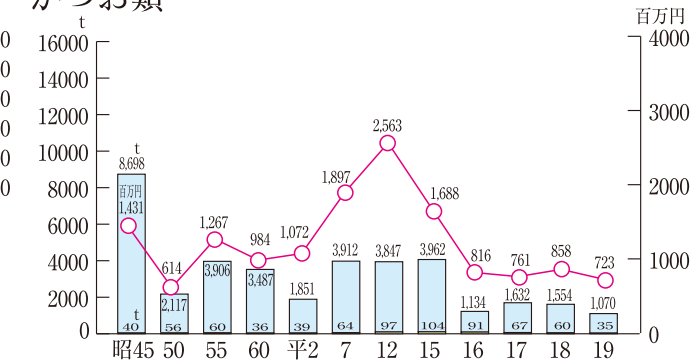
たちうお



まぐろ類



かつお類



漁獲量 (t) 瀬戸内海区 太平洋南区

生産金額 (百万円)

(農林水産統計年報)